

ソフィア・アラベラ・アルウインの幼児教育思想について(2)
～玉成幼稚園の推移と保育実践内容の一考察～

嶋田 貞子

About Sophia Arabella Irwin 's Early Childhood Educational Thoughts (2)
～ Trend of Gyokusei Kindergarten and Consideration of Practice of Childcare Practice ～

Sadako Shimada

キーワード：ベラ・アルウイン、幼児教育思想、保育者養成校、幼稚園、保育実践方法

Key Words : Bella Irwin, Early Childhood Educational Thoughts, Child Care Training School, Kindergarten, how to practice childcare

要約：昨年本校の紀要 34 号に「ソフィア・アラベラ・アルウインの幼児教育思想について(1)～日系二世女性が幼稚園創設に至った教育思想の一考察～」として、日系二世女性(ソフィア・アラベラ・アルウイン)が苦難を乗り越えて、幼稚園創設した経緯と教育思想をまとめた。継続研究として、本論文では学園と幼稚園の推移を概観しつつ、創設した幼稚園で、どのような教育・保育実践が実施されていたのか、また、保育実践に創設者の教育思想等がいかに関与されたのか考察を試みたいと思う。

Abstract : In Bulletin No.34,2017 I revealed that how “about preschool education thought of Sophia Arabella Irwin～Nisei (the second generation of Japanese-American)～” woman held her educational thoughts and finally founded the kindergarten beyond getting over her hardships.

I continue to reveal that what kinds of education and childcare practice were carried out in the kindergarten through examining the historical charges of the kindergarten and how the educational thoughts of the founder were reflected the childcare practice in this article.

はじめに

昨年(2017年)、本学の紀要第34号にて、創立100年を経過した私立「玉成幼稚園」及び「玉成保育専門学校」の創設者である「ソフィア・アラベラ・アルウィンの幼児教育思想について(1)～日系二世女性が幼稚園創設に至った教育思想の一考察」をまとめた。ソフィア・アラベラ・アルウィン[Sophia Arabella Irwin 1883-1957] (以後、ベラと呼称する) が幼稚園創設に至った動機と教育思想は、大きく3点にまとめられた。① ベラが幼少期より伊香保の別荘にて多数の子ども達と遊び交流した経験から「子どもと共にいる幸せ、子ども達と関わる事が上手である」ということと子どもへの愛情と幼児教育への情熱を自己発見したこと、② キリスト教への深い信仰心と結婚問題(戦時中、二世である苦悩の末、生涯独身を通した)、③ 多数の留学経験(ドイツのフレーベル学園、イタリアのモンテッソーリ国際コース等)と偉大な教育者達(マリア・モンテッソーリ[伊: Maria Montessori, 1870-1952]、ヘレン・パークスト[米: Helen Parkhurst, 1887-1973]、A. L. ハウ[米: Annie Lyon Howe, 1852-1943]、倉橋惣三[日: 1882-1955]、他) 達との出会いと学びにより、玉成幼稚園と玉成保育専門学校を創設したことを明確にした。

そこで、本論文では創設した玉成幼稚園に於いて、ベラの幼児教育思想がどのように具現化し保育実践されていたのか、時代背景や幼稚園移転の経緯等も含め、「ソフィア・アラベラ・アルウィンの幼児教育思想について(2)～幼稚園の推移と保育実践に至った教育思想の一考察～」とテーマを設定し考察を試みたい。本来であれば、幼稚園と共に創設された保育者養成校の教育内容も概観したい所であるが、紙面上の都合により本論文では玉成幼稚園の推移と保育実践の内容等を中心に、概観し考察していくこととする。

1. 幼稚園創設期の活動と推移について

1-1 玉成幼稚園創設と推移も含めて

1872(明治5)年8月に学制が公布され、幼児教育機関としての幼稚小学が規定された。その4年後、1876(明治9)年11月にわが国初の東京女子師範学校附属幼稚園(現お茶の水女子大学附属幼稚園)が創設された。幼稚園設立の趣旨は「学齡未滿ノ小兒ヲシテ天賦ノ知覺ヲ開達シ固有ノ心思ヲ啓発シ身体ノ健全ヲ滋補シ交際ノ情誼ヲ曉知シ善良ノ言行ヲ慣熟セシムルニ在リ¹⁾」とされ、この幼稚園を模範として、その後さまざまな幼稚園が設立されていったのである。当時の幼稚園では、どのように保育実践がなされていたかという点、ドイツのフレーベル[独: Friedrich Wilhelm August Fröbel, 1782-1852]が創案した Gabe(英: Gift, 日: 恩物)を使用した保育を基本として保育実践がなされた。東京女子師範学校附属幼稚園の保育内容は、下記のような順序で30～45分ごとに実践されていた。以後、設立された他の幼稚園も同様であった。

〈表1〉 **東京女子師範学校附属幼稚園の一日の流れと活動**

登園→整列→遊戯室(唱歌)→(会集)→開誘室(修身話か庶物話、談話や博物理解等)
 →戸外遊び→整列→開誘室(恩物、積み木)→遊戯室(遊戯か体操)→食事
 →戸外遊び→開誘室(恩物)→帰宅²⁾ *開誘室とは、現在の「保育室」のことである。

大正時代になるとアメリカの児童中心主義の潮流の影響で、新教育運動が起こりフレーベル主義からの脱却やモンテッソーリ法、律動遊戯など幼児主体の保育が実践されるようになった。

1916(大正 5)年、2 月に学校の認可があり、4 月より市ヶ谷駅(麹町土手三番町)近くの閑静な住宅街の一般住宅を校舎として、玉成幼稚園と保育者養成校の開園・開校が決まった。

園児と生徒の募集に関しては、伊香保の打撃 (S・S 事件)³⁾ がトラウマになっていたため、必ず信頼のおける紹介者を介してのみの募集とした。創立当初の幼稚園園長兼養成所所長は、もちろんベラで、「玉成幼稚園」創立当初の園児は 15 名で、「玉成保姆養成所」の学生は 11 名であった。昭和 2(1928)年に校舎を高井戸に新築するまでの 12 年間、園児の兄弟姉妹や知人の入園希望があっても、幼稚園はずっと 15 名の定員を守り続けた。この学園創設について、『ペスタロッチー・フレーベル事典』では「フレーベルの教育精神に根ざした幼児教育の先駆者、恩物を使って保育する方法を普及させた⁴⁾」という表記が見られるのである。幼児教育の飽くなき探求心と学び、キリスト教の伝道を始めとした幼稚園・保育者養成校の創設の理想を、実際に創設した幼稚園でどの様に具現化して実践していたのか、概観しつつ考察していきたい。学園(幼稚園と保育学校)の創設・推移に関しては、「学園の推移」としての資料を作成した。また、幼稚園の推移に関しては、①、②、等の数字を付記して<表 2>にまとめた。

<表 2> **玉成幼稚園の推移** (____下線も含め筆者作成)

- ① 幼稚園の創設…大正 5 年麹町区土手三番町(現市ヶ谷：資料表記通り)に私立玉成幼稚園開設：ベラが園長に就任一間の簡単な門、両側に家があり右が家主山寺宅(保姆養成所一回卒業生宅)二間続きの部屋と庭を使って園児 15 名の保育をした(図 1)。
- ② 関東大震災後…麹町上二番松村邸時代：1923(大正 12)年 9 月の関東大震災で園舎が大破。松村真一郎邸(園児の家)に移転し 2 年間、応接間、食堂、ピアノ、庭等を借りて保育実践した。松村家の子どもが伝染病に罹患し移転した(図 2)。
- ③ 牛込穂積邸 …1925(大正 14)年 7 月、穂積重遠邸(園児の家)の離れ(十畳と六畳)に移転。穂積邸の園児がお茶の水女子大学附属幼稚園に入園した為、移転(図 3)。
- ④ 麹町四番町 …ベラの母イキがベラの園児に対する愛情と教育熱心さに心打たれ、靖国神社近くの麹町四番地に八畳、六畳、三畳、離れのある家を借りてくれた為、移転。
- ⑤ 西荻窪時代 …1927(昭和 2)年西高井戸(現 松庵)に幼稚園新築・移転。園児数は 35 名。幼稚園の部屋は黄色い部屋(モンテッソーリ教具のみ使用)と青い部屋(フレーベルの恩物のみ使用)に分かれていた。
- ⑥ 戦後託児所 …第二次世界大戦の影響で託児所となる。
- ⑦ 幼稚園閉鎖 …戦争の影響で幼稚園閉鎖。
- ⑧ 杉並区宮前 …終戦後、杉並区宮前にあった日本キリスト教団西荻窪教会内に移転・再開(図 4)。
- ⑨ 杉並区大宮前…1946(昭和 21)年 4 月、杉並区大宮前にある旧杉並区役所出張所に移転。
- ⑩ 玉成寮時代 …2 階建ての保姆養成所の生徒の寮の 1 階部分と庭を幼稚園で使用した(図 5)。
- ⑪ 現幼稚園園舎…1952(昭和 27)年、杉並区松庵(現在の土地)に新園舎を新築して移転(図 6)。



図 1 幼稚園創設時平面図



図 2 松村邸の仮園舎 (関東大震災後)



図 3 穂積邸の仮園舎 (牛込)



図 4 西荻窪教会内 (杉並区宮前)



図 5 玉成寮時代 (西高井戸)



図 6 新園舎第三期工事期 (杉並区松庵)

〈表 2〉に纏めた様に戦前・戦中・戦後と社会情勢の影響が大きかったとは言え、11 回も移転している事に、幼稚園存続の苦勞とそれに勝るベラの幼児教育への情熱が感じられるのである。

1-2 玉成幼稚園創設期の環境

ドイツ、イタリア、アメリカ等の留学から帰国したベラは、「幼稚園と保育者養成学校を設立したい」と希望して、日本国内の多数の幼稚園(キリスト教、国公立、仏教系等)や保育所、施設等の視察を通して、各施設の特徴や内容、制度等の資料や情報を意欲的に集めた。それと共に、資金を集めるために質素儉約に努め、物件探しや教員探しに奔走した。

1916(大正 5)年 2 月麴町土手三番町(現 市ヶ谷)に、待望の玉成保姆養成所と玉成幼稚園を創立した(表 2-①)。幼稚園と言っても、玄関は二畳、襖や障子を外した六畳と八畳の二間続きの部屋であった。八畳の部屋の床の間にピアノ、黒板を置いて、六畳の部屋にはフレーベルの恩物とフレーベル机 2 台が置いてあった。押し入れの下段には園児が自分達で出し入れできる様に、教材・教具が綺麗に整理整頓して並べてあった。「三体つなぎ(フレーベルの恩物の一種)」等の教材は、保育後、1 つずつ拭いて常に清潔を保つ様にしていた。幼稚園創立当初の園児は 10 名(その後、15 名になった)で、保姆養成所の生徒は 15 名であった。創設時の園児はベラの知己の子どもや兄弟であった。

それでは、玉成幼稚園ではどのような保育が実践されていたのか、幼稚園の推移に沿ってみたい。移転ごとに保育内容の資料が揃ってはいないので、幼稚園創設時と資料がある移転時期に限って、保育内容と保育実践について概観したい。

2. 幼稚園創設時の一日の流れと保育内容について

1916(大正 5)に麴町土手三番町で最初に創設した幼稚園ではどのような保育が実践されていたのか、一日の流れと保育内容についてみてみたい。玉成幼稚園で実践されていた保育内容が、明治期に日本で初めて創設された東京女子師範学校附属幼稚園やその他の幼稚園の保育内容と同様であったか、また、ベラが留学時に学んだ経験や教育思想がどのように反映された保育であったか等を概観しつつ考察したい。

2-1 玉成幼稚園創設期の一日の流れと保育内容

創設時の玉成幼稚園の一日の流れ、園児と保姆の活動及び保育内容を〈表 3〉にまとめた。玉成幼稚園の一日の流れや保育活動は、前述した東京女子師範学校附属幼稚園の流れや保育内容と似ている。東京女子師範学校附属幼稚園では、登園後整列してから戸外遊び以外は唱歌、修身話、恩物、遊戯か体操等を 30～45 分ごとに(小学校の時間割の様に)と全て一斉指導の保育活動となっている。一方、玉成幼稚園では園児が登園してくると、一人ひとりの子どもの状態に合わせてモンテッソーリ教具を渡して指導したり、園児の意思によっては、別室で絵を描いたり、フレーベルの三体つなぎをしていた。その後、1 時間程園庭にて自由遊びをしている

<表 3>

玉成幼稚園の一日の流れと保育内容

(筆者作成)

	園 児	保 姆 (ベラが主担当)
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 部屋(保育室)と庭(園庭)の掃除 ・ 生花の水替え ・ ピアノの練習 ・ 各教材準備
登 園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自、好きな物を選んで遊ぶ ・ モンテッソーリ教具で遊ぶ ・ 絵を描く(別室) ・ 三体つなぎ(フレーベル恩物) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの状態に合わせてモンテッソーリ教具を渡して指導する ・ 各園児に合わせて教材を渡し、指導・助言する
庭(園庭) [1 時間]	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庭(園庭)で好きな遊びをする(砂場、滑り台など)(図 7) ・ 垣根栽培(きゅうり、豆等)調理 ・ 自然観察(朝顔等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジョーロ、バケツ、スコップ等を準備する ・ 栽培した野菜を調理する
片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・ 片付けてトイレに行く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洗面器、石鹸、タオルを準備する
会 集 (Morning Circle)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 畳みの上に正座し、会集に参加 ・ 讃美歌や歌を歌って祈る ・ 音楽リズム ・ 表情遊戯(園児の自由な発想で) ・ 椅子に座ってフレーベルの恩物をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児と一緒に正座する ・ ベラの発声で讃美歌や歌を歌う ・ ピアノを弾く ・ 歌を歌う ・ 机と椅子、恩物を準備する ・ 恩物の指導をする
弁 当	<ul style="list-style-type: none"> ・ お弁当を食べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机を拭く ・ 栽培して調理した物を準備する
絵 本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本を見る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベラが海外で購入した絵本を読む
戸外遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庭(園庭)で遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児と一緒に遊ぶ
降 園	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベラと一人ずつ握手をして挨拶 ・ 迎えに来た人力車で降園 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1人ひとりの園児と握手をしてさようならの挨拶をする



図 7 園庭・砂場での自由遊び

点や会集の中で讚美歌を歌う等、などが特徴的で異なっている。子どもの主体性を重視した上に、キリスト教主義に基づいた保育実践がなされていた、と考えられるのである。

明治 10 年代の愛珠幼稚園(大阪)の保育内容に「耕作」が取り上げられており、明治中期以降は東京女子師範学校附属幼稚園を始めとした幼稚園の園庭に幼児用菜園が備えられ、野菜や花の種をまいて水をあげ、雑草を取ったりして「園芸」として取り扱われ、観察・栽培が盛んに実施されるようになった。玉成幼稚園でも垣根を利用して朝顔を育てて自然観察をし、きゅうりや豆等を園児と一緒に種まきをして手入れや栽培し、保育者が調理してお弁当を食べる時に園児に出していた。玉成で保姆養成所の生物学講師であった下和重吉氏は「アルウィン先生が当時私にご注文になった“何でも生きた物を生きた姿で見せてあげてください”というお言葉を思い、今日のこの世相に対して非常に先見の明のあった方だと最近になって感じる⁵⁾」と書き記している。園児の登園前の保姆の活動の所に「生花の水替え」という表記があるが、保育室に常に生花を飾り、毎日水替えをして生花を長持ちさせ飾る環境整備にも配慮していたことが分かる。1921 年(大正 10)年の岡山市立幼稚園の「保育事項ノ要旨」の園芸の中で、「園長ハ主トシテ四季ノ草花又ハ菽類シユクルイ(豆類ノ総称)菜類ヲ培養セシメ或ハ動物ヲ飼育セシメ、動物生活植物生活及自然法則ノ存在ヲ悟ラシメ且自然ニ対スル愛ト興味トヲ喚起セシメ知ラズ識ラズ幼児ノ發育ヲ助クルヲ以テ要旨トス⁶⁾」と記されている。この様な草花・野菜栽培や自然観察、動物飼育等は、1926(大正 15)年に発布された「幼稚園令」の「遊戯」「談話」「唱歌」「手技」の 4 項目の保育内容と共に「観察」として位置づけられ、各幼稚園で盛んに保育実践に取り入れられた。玉成幼稚園でも積極的に取り入れて保育が実践されたのである。

2-2 玉成幼稚園の特徴

玉成幼稚園が創立された大正時代は、1900(明治 34)年に女子高等師範学校を中心とした研究団体フレーベル会刊行による「婦人と子ども」誌上、アメリカの幼稚園教育改革運動がコロンビア大学で進歩派代表のヒル氏[米: Patty Smith Hill, 1868-1946]の記事が紹介されるようになり、自由保育の考え方が主流になってきた。フレーベルの恩物中心の幼児教育から、児童の自発的活動(幼児の主体的な遊戯)を重視する児童中心主義へと移行し、モンテッソーリ教育法等も導入された。ドイツのフレーベル学園やアメリカのコロンビア大学に留学し、ローマのマリア・モンテッソーリから直接教示を受けたベラは大正時代の流れに沿いつつもベラ自身が学び考えた幼児教育の実践を具現化していったと考えられる。

玉成幼稚園の保育活動で特徴的だった点は、次の 3 点が挙げられる。1 点目は、お弁当を食べた後の絵本の内容である。〈表 3〉の絵本の項目を見ると、「ベラが海外で購入した絵本を読む」とあるが、この絵本は日本国内の絵本をはじめとして、ベラがアメリカやドイツ、イタリアなどに留学していた時に購入した海外の絵本である。ベラはフィラデルフィアに留学中、童話に特別な興味を持っていて、アンデルセンの『絵のない絵本』、イブセン『ペールギュント』、セルマ・ラーゲルレーフ(ノーベル賞受賞者)『幻の馬車』等をはじめ、日本や中国、インドの

民話等も研究して論文の筋書きとして記録しているのである。このように、留学中に研究した童話の内容を選択して本を購入し、ベラが良いと思った本を園児に読んでいたのである。

2点目は、キリスト教の深い信仰心に基づいた保育と深い愛情を一人ひとりの園児に注いだこと、さらに、園児一人ひとりの性格や個性をよく理解し対応していたことがわかる。

登園後の自由遊びの際にも、モンテッソーリ教具を園児一人ひとりの状態に合わせて渡す、または、モンテッソーリ教具以外にも各園児に適した教材を渡し、決して強制をせず保育しているのである。会集(朝の会)には必ず讃美歌を歌い祈った。ベラは「仏教であれキリスト教であれ宗教とは決して強制して教えるものではない。神は幼児と共にあり、幼児の中にこそその実在を顕示している。幼児に神を教えるのではなくて知らせること、幼児自身が神を発見し感知し得るように環境をととのえることが、幼児教育の任務⁷⁾」と考え、キリスト教の話しを通して神の愛を知り、全ての物に感謝の気持ちを持てるようにと祈ったのである。また、降園時には園児一人ひとりと握手をして帰りの挨拶をしたのである。卒園した園児達が作成した同窓誌「つみき創刊号」の挨拶の中で、ベラは卒園児に向けて「大好きな皆様、とても、始終お逢ひしたい皆様…。あなた方が、どうなさっておいでか、始終知り度いと存じて居る私…。今度こう云ふ雑誌が出る様になったこと、もう嬉しくつてうれしくつて、たまりません。⁸⁾(原文のまま)」と記入して、園児・卒園児に深い愛情を注いでいた様子やベラの嬉しい気持ちが伝わってくるのである。

玉成幼稚園での特筆すべき3点目として、ベラは園長であったので通常であれば「園長先生」或いは「アルウィン先生」と呼称されるところであるが、他の保育者や学生を除いて、園児や保護者から「アルウィンさん」と呼ばれていたことである。当時の幼児たちは「アルウィンちゃんと呼んで自分たちの仲間、ただ面白いお話をたくさんしてくれて、いろいろゆかいな遊び方を考え出して遊んでくれる人と思っていた⁹⁾」と語っている。父母たちと取り交わされた教育相談の手紙も多数残されていて、その手紙から保護者との深い信頼関係があったことを伺い知ることができる。

2-3 西荻窪時代：玉成幼稚園の保育内容

〈表2〉の⑤西荻窪時代(昭和2年)の保育内容は、〈表3〉で示した内容と同様であるが、新たに加わった活動に着目すると、自由主義教育(プロジェクトメソッド[Project Method])、ヒル氏の積み木、年中行事、同窓会等の4項目が挙げられる。4項目の内、(1)自由手技教育、(2)ヒル氏の積み木、(3)年中行事の内容について概観したい。

(1)自由手技教育(プロジェクトメソッド)：空き箱、空き缶、糸巻、毛糸、包装紙等の廃品材料を並べ、園児は自分で材料を選び思い思いの作品を制作した。各園児が個人的に制作する場合と4~5人のグループで制作する場合とあった。グループ制作した物を利用してお店屋さんごっこ(パン屋・花屋等)、お買い物ごっこ、等の活動をする、園児が乗れる大型自動車等も作成した。この制作を通して、各園児の個性を生かすことができるような指導を実施した。

(2) **ヒル氏の積み木**：(1)の自由手技教育の大型自動車等を作成する際、ベラがアメリカ留学から持ち帰ったヒル氏(前述)の積み木(恩物中心のフレーベル主義を批判し子どもの自発的な遊びを重要視するカリキュラ開発, 大型積み木を考案¹⁰⁾)をグループ制作や保育活動に活用した。お店屋さんごっこや電車ごっこ、おままごと等、共同制作や「ごっこ遊び」の遊びに活用して指導した。

(3) **年中行事**：ベラは日本の伝統行事を大切にとらえ、保育活動に取り入れていた。お正月には羽根つき大会、かるた取り、独楽まわし、凧上げ等を園児と共に楽しみ、お汁粉を食べ正月気分を味わった。このお汁粉作りはベラと共に保育に携わった教員が保育学校の文化祭に引継ぎ作っている。5月の節句には自然物を利用してさつまいもの金太郎、筍の皮やとうもろこしのひげで鍾馭様等を作成した園児一人ひとりの作品に万雷の拍手をして飾った。その他に、春秋の遠足や自然観察(近隣に畑がありじゃがいもやさつま芋、大根など)と栽培・調理をして食べた。10月の創立記念日には自然物で装飾してお祝いした。クリスマスは、遊戯室の天井まで届くようなクリスマスツリーを設置して園児と共に装飾し、ベラの指導の下園児が降誕劇を演じ、ベラが作曲した園歌「にこにこの種(図 11)」を歌った。卒園式は園児一人ひとりに卒園証書を手渡し厳かに行われた。さらに、日本の皇紀 2600 年式典に参加し、支那事変や満州事変等に出征していく兵を園児と共に日の丸の旗を持って見送る等した。しかし、ベラは第二次世界大戦が勃発し両親の国同士が戦っている事に大変心を痛めた。キリスト教の信仰心と人類平等・平和主義をモットーとして、保育の中で子どもの遊びから極力「軍艦」「鉄砲」「戦争ごっこ」がないように配慮して保育実践した。

この様に大正末期から昭和初期には、児童中心主義のアメリカ新教育運動や倉橋惣三や和田実らの提唱する「誘導保育」等の保育思潮の影響もあり、保育内容も変化していった。奈良女子高等師範学校附属幼稚園の保育要目にも「四月;花祭り、天長節、五月;聖武天皇祭、大仏殿参詣、五月節句、金太郎、六月;蛍、梅雨、七月;七夕祭¹¹⁾(二年保育:年長組)」等の行事の保育内容項目が計画され保育内容に取り入れて活動している事からも理解できるのである。

3. 保育実践と保育指導方法について

玉成幼稚園で保育実践をするにあたり、ベラの留学経験や確固たる信念に基づいた保育が実施されていた。彼女はキリスト教に基づいた全人教育を理想として保育実践していた。ベラが特にこだわって実践していた保育内容は、1. 会集、2. フレーベルの恩物とモンテッソーリ教具、である。具体的な保育実践内容を概観したい。

3-1 会集について

ベラが実践した保育内容の一つに、「会集」という項目がある。明治期から大正時代にかけて<表 1>に記したように東京女子師範学校附属幼稚園の一日の流れの中にも会集が組み込まれている。しかし、アメリカの新教育運動等の影響を受けて大正期から昭和前期頃には、会集を

廃止する幼稚園が増えていった。しかし、他の幼稚園で会集を廃止しても、玉成幼稚園では重視し取り入れられていた。ベラが会集を保育の中で日々実践していたのには、強いこだわりがあった。会集の内容とこだわりについてベラのノートを参照すると、会集を「Morning Circle」と記して、副題に“1)Religion Circle, 2)Intelligence Circle, 3)Education Music Circle”、等とし、朝の会で実施する大切なプログラムとして考えていた。プログラムの内容と順番は **1) 奏楽、2) 祈り、3) 讃美歌、4) 挨拶、5) 暦、6) 歌とリズム遊び、7) 話** であった。会集は環境の異なる各家庭から幼稚園に登園してきた全園児と全教師が一同に集まって活動する。ベラにとってこの会集に参加する事は異年齢の集まり「縦割り保育」の形態で、忍耐や譲り合い、いたわり合う事等の経験が出来る貴重な場であると想定していた。会集を行う場所は、室内、戸外を問わず全園児が集える広さがあれば良いと考えていた(図 8)。会集の具体的な活動内容は <表 4>に纏めた通りである。ベラは、この会集で「幼児の純真無垢な心に、神の存在を知らせること」を主眼としたキリスト教思想を根底にした会集を重要視し実施していたと考えられる。

<表 4> **玉成幼稚園の会集の活動内容について** (筆者作成)

1) 奏楽(Quiet Music)	奏楽の目的として①幼児の音楽鑑賞、②心理的生理的神経の鎮静、③注意力の持続訓練、④潜在意識化に美しい音楽を浸透する等で、楽器はピアノを始め、独唱や全ての楽器を担当教諭が真心を込めて演奏する事が大事である。
2) 祈り(Prayer)	奏楽で心静かになった後に「全ての生命の守護と感謝を祈る」と子ども達に分かりやすい言葉で祈った。キリスト教だけでなく宗派を問わず大切にした。
3) 讃美歌(Hymn)	祈りに続き、神への感謝、喜びを歌うのが讃美歌である。怒鳴らず美しく歌うよう、教師が正確な伴奏で明確に歌う事が必要とされる。
4) 挨拶(Greeting)	子ども同士、教師との再会を喜び朝の挨拶は心を込めて行った。朝の挨拶以外の挨拶も折々に相応しく実施する事が、社会生活の道徳と考え実施した。
5) 暦(Calendar)	人間社会の「時間(過去・現在・未来)」一日、一週間、一か月、一年や四季を知らせる事が大切と、教師が毎月描画・作成した暦(新聞大)を使用した。
6) 歌とリズム遊び	幼児の歌いたい本能や身体的鍛錬をしつつ豊かな感性を養う為に取り入れた。聴覚・発音発生、音感、平衡感覚等の発達と教育的効果を考え、標準語や歌の長さ、内容等精査した。ダルクローズリトミックを取り入れた。
7) 話	幼児の発達段階や年中行事等によって、話の種類や内容を考えた。①言語教育、②観察、③五感を通しての知的鍛錬、④社会の一員である事を目的と考え、1. 聖話、2. 母の歌と愛撫の歌、3. 行事、4. 観察話、5. 童話・伝説・民話等を取り入れた。

上記した「会集」は 1)～5)、7)話しまでは順番通りに行う事が多く、6)歌とリズム遊びは会集に含めず活動する事もあった。会集は幼稚園開設時より平成の昨今まで、ベラの理念を引き継いで保育実践されている。特に 5)暦は多数の保育現場で「月、日にち、曜日」等のカード

を作成して、登園してきた園児(3歳以上の子どもの場合)がシール帳にシールを貼る時に机に掲示し園児に理解しやすくしているが、玉成幼稚園の場合は、暦としてカレンダーを毎月、教員が手作りで作成し、子どもと季節に合った折り紙制作等をして、作成した折り紙を日付確認と共にカレンダーに貼るという実践がなされていた。ベラの「教員が心を込めて描く、作る」という保育実践への考え方がカレンダーや誕生日カード制作に反映されていたのである。

3-2 フレーベルの恩物

ドイツの「フレーベル学園」で学んだベラは恩物を一式購入して帰国した。しかし、恩物は「インチ」で作られていたので(日本に導入された時にインチであった為、子どもへの指導が大変で保育者が混乱したとも言われている)、幼稚園で使用する為に単位を全て「センチ」に切り替えて東京のフレーベル館に恩物作成の依頼をして購入した。そして、昭和2年の西荻窪時代(表2⑤)には、フレーベルの恩物は遊戯室、机、椅子、戸棚や壁が全て黄色い部屋で実践されていた。ベラはフレーベルのキリスト教に基づいた教育思想に傾倒し、幼稚園で恩物教育を一貫して実施した。子どもの年齢と発達理解や興味に基づき、恩物の種類の選択や提供の方法を年間・月間・週間・一日のカリキュラム等を作成して活動していた。各年齢と園児一人ひとりの個性と能力に合わせて恩物を与え指導した。ベラは常に全ての恩物の並べ方や、色彩の調和、数の概念の理解等に注意を払って指導した。第1恩物から第10恩物の長年の保育実践記録を恩物の意義と遊び方と共に『恩物の理論と実際』としてまとめて出版した。その後、第11恩物から第20恩物は『手技工作(Occupations)』として1976(昭和51)年に学園創立60周年を記念して出版した。現在も『恩物であそぼう』『恩物であそぼう～絵画・造形編～』として出版されており、保育現場やフレーベル教育思想・恩物研究者にも資料として活用されている。平成になってからも玉成幼稚園では恩物を使用した保育活動を実践し、子ども一人ひとりが恩物を使って楽しみながら積み木遊び等を行う活動が展開されている(図9)。



図8 戸外でお祈り：あっ 目があいてる！



図9 第3/第4恩物：できた！(年長組)

3-3 モンテッソーリ教具と感覚教育

イタリアの「モンテッソーリ教育(国際コース)」で学んだベラはモンテッソーリ教具をアメ

リカの” The House of Childhood 会社”で購入して帰国した。モンテッソーリ教具は遊戯室や机・椅子、棚等全てが青い部屋で実施された。モンテッソーリ教具では、園児が生活習慣の自立が図れるように“衣服の着脱やボタンはめ、紐結び”等の教具等を使用した。また、園児の描画から形を理解できていない園児には“型はめ”の教具、そわそわと落ち着きのない園児には“大階段や方塔”等、各園児に適した教具を渡すなど、常に一人ひとりの園児に心配りをして保育をした。モンテッソーリは知的障害児に向けた「愛」から出発し、「精神と感覚の相互統一と相互理解に根ざした実践と科学的教育理論との結びつき」から知的障害児向けの教具を考案した。しかし、ベラはその思想に共感しつつも自分の幼稚園園児の定型発達児(健常児)に役立つと考え、子どもの特性に合わせて渡して指導した。これらのことから、ベラは「感覚教具は、単に手や指先の訓練、聴覚の訓練、視覚、臭覚、味覚、皮膚感覚の訓練だけを目標としたものではなく、その子どもの内にある叡智を目覚めさせる教育¹²⁾」と考えていたことが理解できるのである。5人の園児とベラは青い部屋に入った。同時に、別の教師が一緒に入りベラと園児の教具を使用する状況を観察しメモを取り、記録から各園児の特性と活動を理解し次回の活動へ改善して生かすようにしていた(現在のPDCAサイクル)のである。ベラがモンテッソーリの感覚教育で重要視したのは「数」「言語」「環境教育」であった。数はフレーベルの恩物と、言語は会集の話と関連づけて実践から指導方法を研究していた¹³⁾。

ベラは恩物を黄色い部屋、モンテッソーリ教具を青い部屋と何故各部屋を色分けしたのか、また、色の選択の方法の意味を調べているが、いまだ資料が見つからず不明瞭である。引き続き資料検索や聞き取り調査等をして、理由を明確にしたいと考えている。

4. まとめと今後の課題

本論文では、玉成幼稚園の推移と保育内容、ベラの教育思想を保育実践にいかにより具現化していたのかについて概観した。玉成幼稚園創設当初は、他の幼稚園同様、我が国初の東京女子師範学校附属幼稚園を模範としながらも、ベラは留学した経験から学習・研究した保育方法を彼女なりに工夫して保育実践していたことが伺えた。一斉指導という方法であっても、登園してきた個々の園児の特性に合わせて、フレーベルの恩物、モンテッソーリ教具、描画等の教材を選択して園児に渡して指導していたこと。また、「神の前に人は皆平等である」というキリスト教の信仰を根底に置きつつ、全人教育や平等教育の理念から、会集を実施していたこと。一人ひとりの園児に深い愛情を注ぎ、自身の学習経験から最善を尽くして保育実践したことなど。様々な事情や戦争の影響から11回と幼稚園を移転しながらも、保育を実践しようとした点に、ベラの並々ならぬ幼児教育への情熱を感じる。時代の流れや戦争の影響を受けつつも、キリスト教の信仰心に基づいて幼児一人ひとりに愛情をもって、また、一人ひとりの個性や特性をしっかりと理解して個々に合わせた指導方法を選択して保育を実施していたことがわかった。「Bestこそがわが目標、Betterに非ず」の理念を掲げ、ベラ自身も常に全力で保育に携わっていたことが理解できた。モンテッソーリに直接教示を受けていた影響から

か、障害の有無にかかわらず、園児一人ひとりの特性を理解し対応していた点は、現在のインクルージョン教育(包括教育)の思想に合致しており、ベラの先見の明を感じ驚嘆するところである。

今後の課題として、保姆養成所(保育者養成校)の推移と養成校での教育内容にベラ(図 10)の教育理念がどのように具現化されていたか、概観し考察したいと考える。さらに、今回の論文では玉成幼稚園創設期の保育活動内容に限っての資料のみを収集し記述・考察しているので、幼稚園推移・移転期ごとの保育活動内容を検討できるように、資料収集に努め、分析・考察していきたいと考える。



図 10 創設者アルウィン・ベラ(青年期)

図 11 園歌「にこにこの種」

にこにこの種を お庭にまいたら
 かわいい二つの 芽が出ました
 まがらず育てよ まっすぐに育てよ
 いつでも元気に 大きくなれよ

大きくなったらば きれいなお花を
 咲かせてにこにこ お笑いなさい
 詩 ベラ・アルウィン

引用文献

- 1) 文部省『幼稚園教育百年史』ひかりのくに株式会社 1979 序
- 2) 同上 pp.57-58
- 3) 松村康平『荒野に水は湧きて』学校法人 アルウィン学園 1980 pp.118-123
- 4) 日本ペスタロッチー・フレーベル学会『ペスタロッチー・フレーベル事典』玉川大学出

版部 1996 p8

- 5) 文部省『幼稚園教育百年史』ひかりのくに株式会社 1979 p161
- 6) 松村康平『荒野に水は湧きて』学校法人 アルウィン学園 1980 p251
- 7) 同上 p128
- 8) 玉成幼稚園同窓会々誌『つみき創刊号』玉成幼稚園内同窓会 1939(昭和 14)年 pp.1-2
- 9) 松村康平『荒野に水は湧きて』学校法人 アルウィン学園 1980 p155
- 10) 柴崎正行編著『保育方法の基礎』わかば社 2015 p79 (寫田貞子著)
- 11) 文部省『幼稚園教育百年史』ひかりのくに株式会社 1979 pp.245-246
- 12) 松村康平『荒野に水は湧きて』学校法人 アルウィン学園 1980 p345
- 13) 寫田貞子「ソフィア・アラベラ・アルウィンの幼児教育思想について(1)～日系二世女性が幼稚園創設に至った教育思想の一考察～」 2018 秋草学園短期大学紀要第 34 号の中でモンテッソーリとパーカストから学んだ経験と内容を詳述している。

図 (写真)

- 1 ～7: 玉成 70 年記念委員会『玉成』盛光印刷所 1985 pp.8-15
- 8 ～10: 同上 pp.30-32

参考文献

1. 清原みさ子『手技の歴史 フレーベルの「恩物」と「作業」の受容とその後の理論的、実践的展開』新読書者 2014
2. キリスト教保育連盟『キリスト教保育 125 年』キリスト教保育連盟 2014
3. 永井理恵子『近代日本キリスト教主義幼稚園の保育と園舎一道愛幼稚園における幼児教育の展開一』学文社 2011
4. 松浦公紀著『モンテッソーリ教育が見守る子どもの学び』学習研究社 2004
5. 湯川嘉津美『日本幼稚園成立史の研究』風間書房 2001
6. 小原芳明『ペスタロッチー・フレーベル事典』玉川大学出版部 1996
7. 80 周年記念委員会『アルウィン学園 80 周年記念誌』いづみプリンティング 1995
8. キリスト教保育連盟『日本キリスト教保育百年史』1986
9. 玉成 70 年記念委員会『玉成』盛光印刷所 1985
10. 岡田正章編『フリードリッヒフレーベル いま、私たちが学ぶもの』フレーベル館 1982
11. 日本保育学会編『日本の幼児教育 Early Childhood Education and Care in Japan』チャイルド社 1979
12. 文部省『幼稚園教育百年史』ひかりのくに株式会社 1979
13. 松村康平『荒野に水は湧きて』学校法人 アルウィン学園 1980
14. 玉成高等保育学校幼児保育研究会『フレーベルの恩物の理論とその実際』フレーベル館 1964